

画論 32nd The Best Image 参加報告

北海道 CT 遠友 ser 会会員の皆様、平素よりお世話になっております。札幌東徳洲会病院の阿部と申します。この度、画論 32nd The Best Image に光栄にも発表の機会をいただいたためこの場をお借りし報告させていただきます。

私は今回、Aquilion ONE(心血管部門)において「非通常型心房粗動に対するケミカルアブレーション術前 CT」との症例名で発表して参りました。ケミカルアブレーションとは、冠静脈洞から分岐するマーシャル静脈という微細な静脈にエタノールを注入して不整脈を焼灼する治療になります。このマーシャル静脈という血管は、左上大静脈の遺残物で、一定の割合で存在しないことが知られていることから、その存在を術前 CT で明らかにすることは、臨床的メリットがあると当院では考えております。本発表では、これらに関する当院の取り組みに関して発表させていただきました。結果は優秀賞で、最優秀賞には届きませんでしたが、非常に実りのある経験を積むことができたと考えております。

その他の発表も興味深いものばかりで、大変勉強になりましたが、特に印象に残った発表は「4D bolus tracking 法を用いた Endoleak 評価」でした。この発表はステントグラフト後の 4DCT と大動脈 CT を一連のプロトコルで行うという内容でした。通常、大動脈 CT を撮影する際は RealPrep を使用したボーラストラッキング法で撮影す

ることが多いと思われますが、この発表では、RealPrep 部分を低管電圧の Dy-volume に変更し、それを 4DCT として代用し、その後大動脈 CT を撮影する、といった内容でした。個人的にはこの発表を聞いて時に「やられた感」を真っ先に感じました。結局この発表が最優秀賞を獲得したわけですが、画論において、この「やられた感」というのはひとつ重要な要素なのではないかと考えています。今後も患者さんにとって有益な検査をする事を念頭に置きつつ、「やられた感」を感じさせるような症例に出会った際はまた画論に応募したいと考えております。

最後になりますが、まさか自分が上位入賞をして最終プレゼンテーションに行けるとは全く思っていなかったため、画論事務局から上位入賞のメールがきた時は驚きや嬉しさと同時に不安もありましたが、なんと今回の画論 CT 部門は、北海道から 4 人が選ばれており、それだけで大変心強かったです。その中で、最優秀賞を受賞された北光記念病院の中村様におかれましては同じ北海道代表としてとても誇らしく感じました。また、同じく上位入賞された札幌医科大学附属病院の大橋様と吉川様にはスライド作成などあらゆる面で快く相談にのって頂き大変助かりました。この場を借りて厚く御礼を申し上げます。